

山梨県北巨摩郡白州町

# 雑木遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

白州町教育委員会  
峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡白州町

# 雑木遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

白州町教育委員会  
峡北土地改良事務所

# 序

この報告書は、平成4年度県営圃場整備事業に伴い、発掘調査された雑木遺跡の調査結果をまとめたものであります。

白州町には、縄文時代から古代、中世までの各時代にわたり、人々の生活の跡を語る埋蔵文化財包蔵地が数多く分布し、各遺跡からは、それぞれの時代の土器類等が発見されています。特に、白須・鳥原・横手地区等の広い段丘面には、大規模な遺跡の存在が知られています。

全町を対象とした水田の圃場整備事業は、昭和58年度から開始され、その間には昭和59年の根古屋遺跡の発掘をはじめ、数カ所の発掘調査が行われました。

雑木遺跡は、釜無川右岸の高位段丘面上、白州町白須字雑木地内に所在し、約1,200㎡の範囲にわたり発掘調査されました。

その結果、縄文時代前期から晩期の遺物、平安時代の住居址7軒等が発見されました。そのなかには、日本最古級の人面土器片や平安時代の寺の名前の書かれた墨書土器など大変貴重なものがありました。最後に、この事業にご協力を賜りました峡北土地改良事務所・山梨県教育庁学術文化課等関係機関の皆様をはじめ、直接にご協力をいただきました前沢区の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

白州町教育委員会

教育長 渡 辺 哲 郎



# 目 次

序	
例 言・調査組織	
目 次・凡 例	
I 章 調 査 状 況	1
1 節 調査に至る経過	1
2 節 調査経過	1
II 章 遺跡の位置と概観	3
1 節 位 置	3
2 節 概 観	3
III 章 遺構と遺物	7
1 節 縄文時代の遺構と遺物	7
2 節 平安時代の遺構と遺物	7
IV 章 ま と め	31
図 版	

## 挿 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図	2	第12図 6・7号住居址	15
第 2 図 調査区位置図	4	第13図 1号住居址出土遺物	16
第 3 図 周辺の遺跡	5	第14図 2号住居址出土遺物①	16
第 4 図 全体図	6	第15図 2号住居址出土遺物②	17
第 5 図 縄文時代の出土遺物①	8	第16図 2号住居址出土遺物③	18
第 6 図 縄文時代の出土遺物②	9	第17図 3号住居址出土遺物	19
第 7 図 縄文時代の出土遺物③	10	第18図 4号住居址出土遺物	20
第 8 図 縄文時代の出土遺物④	11	第19図 5号住居址出土遺物①	21
第 9 図 1号住居址	12	第20図 5号住居址出土遺物②	22
第10図 2号住居址	13	第21図 6号住居址出土遺物	23
第11図 3・4・5号住居址	14	第22図 7号住居址出土遺物	23

## 図版目次

図版 1	遠景／全景（遺構確認面） ……35	図版 5	3・4号住居址 ……39
図版 2	全景／近景 ……36	図版 6	5・6・7号住居址 ……40
図版 3	1号住居址／2号住居址 カマド…37	図版 7	1号住居址出土墨書土器 ……41
図版 4	2号住居址 ……38	図版 8	縄文時代前期末の土器 ……42

## 凡 例

- 1 遺構平面図は、1/80に統一した。
- 2 遺物は、1/3を基本とし、縄文時代前期末の土器と平安時代の坏・皿を1/2とした。
- 3 黒色処理された坏の内面は、スクリーントーンをかけてある。
- 4 遺物断面は、須恵器を黒塗り、陶器にはスクリーントーンをかけてある。
- 5 表裏に文様のある土器は、右に内面の拓影を図示した。
- 6 出土遺物一覧表の法量は、上から口径・底径・器高の順で記載し、単位はcmである。

# I 章 調査状況

## 1 節 調査に至る経過

平成4年度着工予定の山梨県北巨摩郡白州町前沢地区県営圃場整備事業に伴い、平成3年10月に実施した埋蔵文化財範囲確認調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地である雑木遺跡の範囲が確認された。

範囲確認調査は、県営圃場整備事業予定区域8haを対象として、幅2m・長さ10m程の試掘坑を任意に設定し、重機により耕作土及び水田床土を排土した後、人力により地山まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認する方法で行った。

その結果、縄文時代前期末の土器片・黒曜石などが検出され、これまでの分布調査で確認されていた位置より中心で100m程南東にずれることが確認された。以上の結果から、町教育委員会が主体となり本調査を実施することとなった。

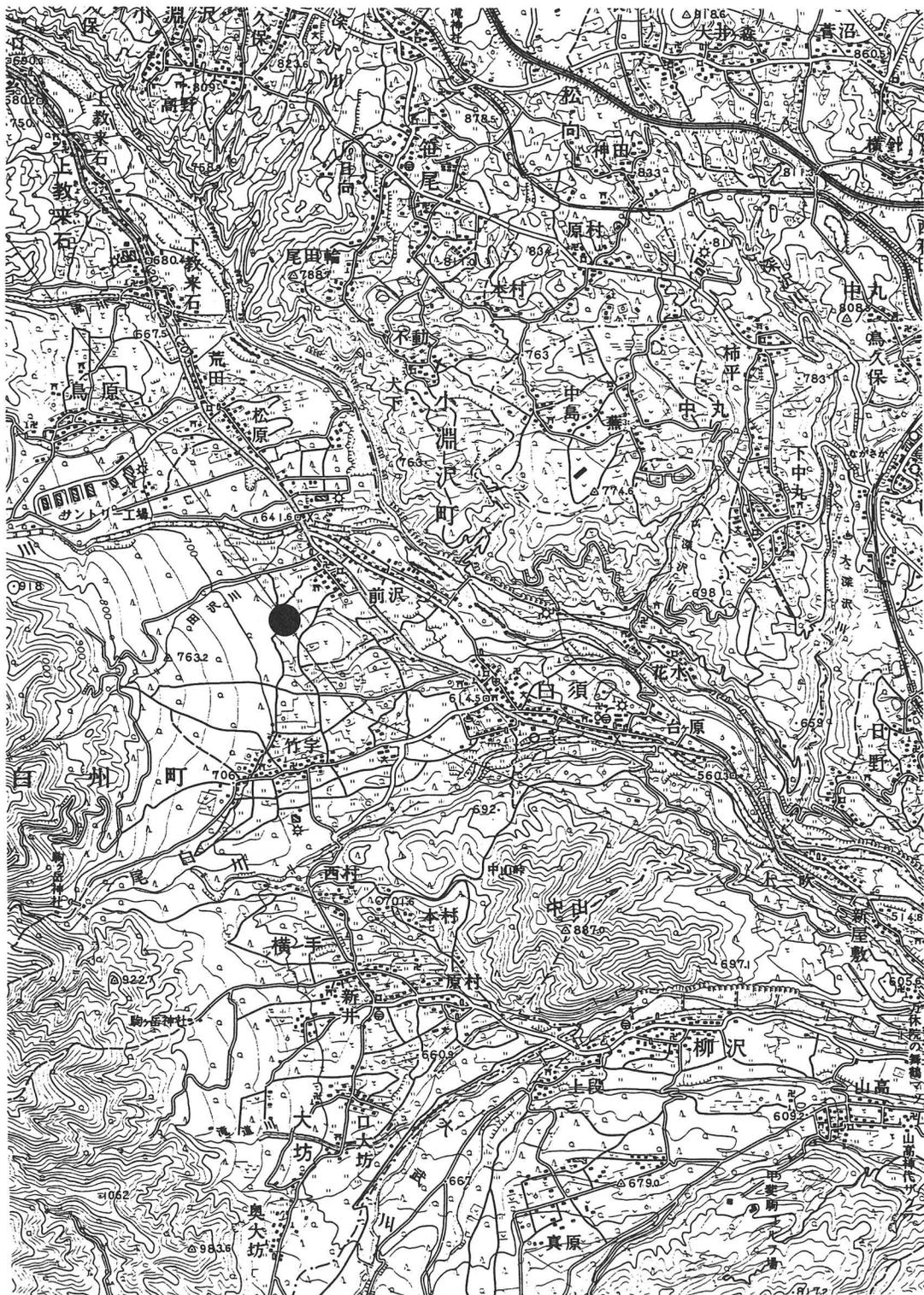
その後、平成8年度に白州町地内の県営圃場整備事業の終了に伴い、事業主体である峡北土地改良事務所と町とで整理調査の負担協定を締結し、本報告書刊行の運びとなった。

## 2 節 調査経過

発掘調査は、平成4年4月28日から開始し、同年5月29日に現地調査を終了した。その後、報告書までの整理事業が完了したのは、平成9年3月であった。

調査方法は、遺物包含層がほとんどないため重機で遺構検出面まで掘り下げた。その結果、7軒の平安時代に属する竪穴住居址7棟と土坑3基が発見された。遺構検出面は、大半（3～7号住居址検出部）が人頭大の礫を含む砂礫層で、2号住居址から北側が黒褐色土、調査区西辺が水田造成時の削平によりソフトローム（1号住居址の西半）であった。また、調査区の東端は水田造成時の盛土（ローム）中に多量の縄文時代中期の土器片が検出されたため、人力で掘り下げ、遺物を採集した。

調査区は、試掘調査により2枚の水田約1,200㎡の範囲（第2図）とし、グリッドは、10m四方で磁北に合わせて設定した。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

## II章 遺跡の位置と概観

### 1 節 位 置

雑木遺跡は、山梨県北巨摩郡白州町白須字雑木6107・6109番地に所在する。(第1図)

本遺跡は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳の前山群を構成する巨摩山地の一つ日向山の東麓に位置し、東400mに前沢集落の中心がある。また、東1,500mに釜無川(富士川)が北西から南東に流れ、この釜無川によって形成された河岸段丘高位面を基盤に立地している。

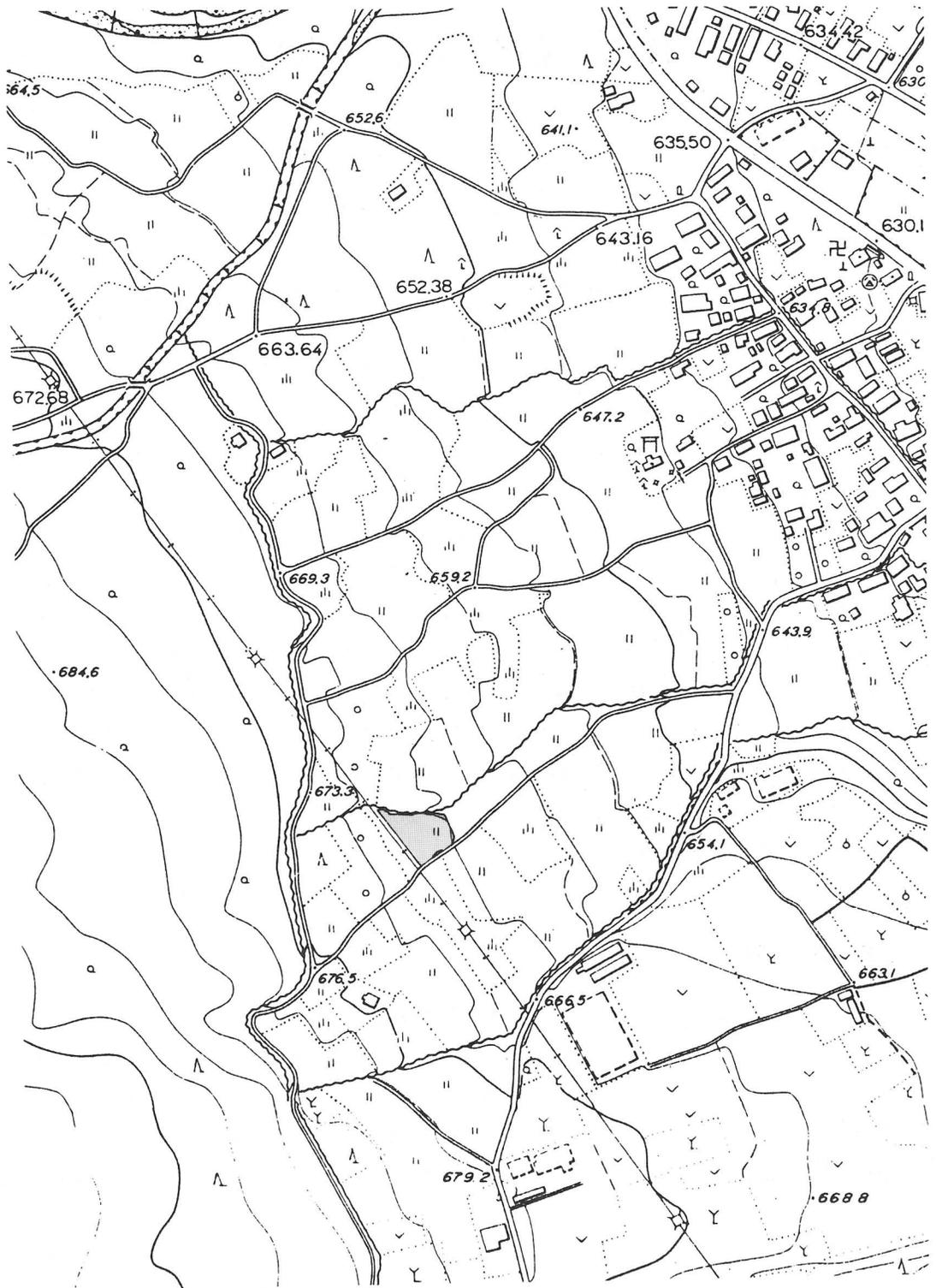
本遺跡の周辺の段丘面は、田沢川の扇状地堆積物に厚く覆われている。田沢川は日向山を源流とし、現在本遺跡の北400m付近で北に向きを変え神宮川に合流しているが、前沢・白須上集落一帯で大雨ごとに流れを変える暴れ川であり、周辺の圃場整備事業に伴う試掘調査においても幾筋もの河道跡が確認されている。

周辺の遺跡として北東400mに竹花遺跡(第3図-2、縄文中期を中心とする散布地)、南東400mに北原遺跡(3-3、縄文・平安・中世の大集落と推定される)、また東1,000mに坂下(3-4)・所帯I(3-5)・所帯II(3-6)遺跡の3遺跡が点在し、これらは圃場整備事業に伴い発掘調査が行われ報告書が刊行されている。坂下遺跡は、2,820㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址4軒、小型の竪穴住居址と推定される小竪穴が3基、掘立柱建物址1棟の他、中世の土坑50基と石組をもつ水路状遺構が検出された。所帯I遺跡は、1,880㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址6軒、掘立柱建物址4棟、土坑11基が検出された。所帯II遺跡は、3,280㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址10軒、掘立柱建物址2棟の他、土坑60基が検出されている。この3遺跡は、いずれも小規模で出作り集落と推定されている。

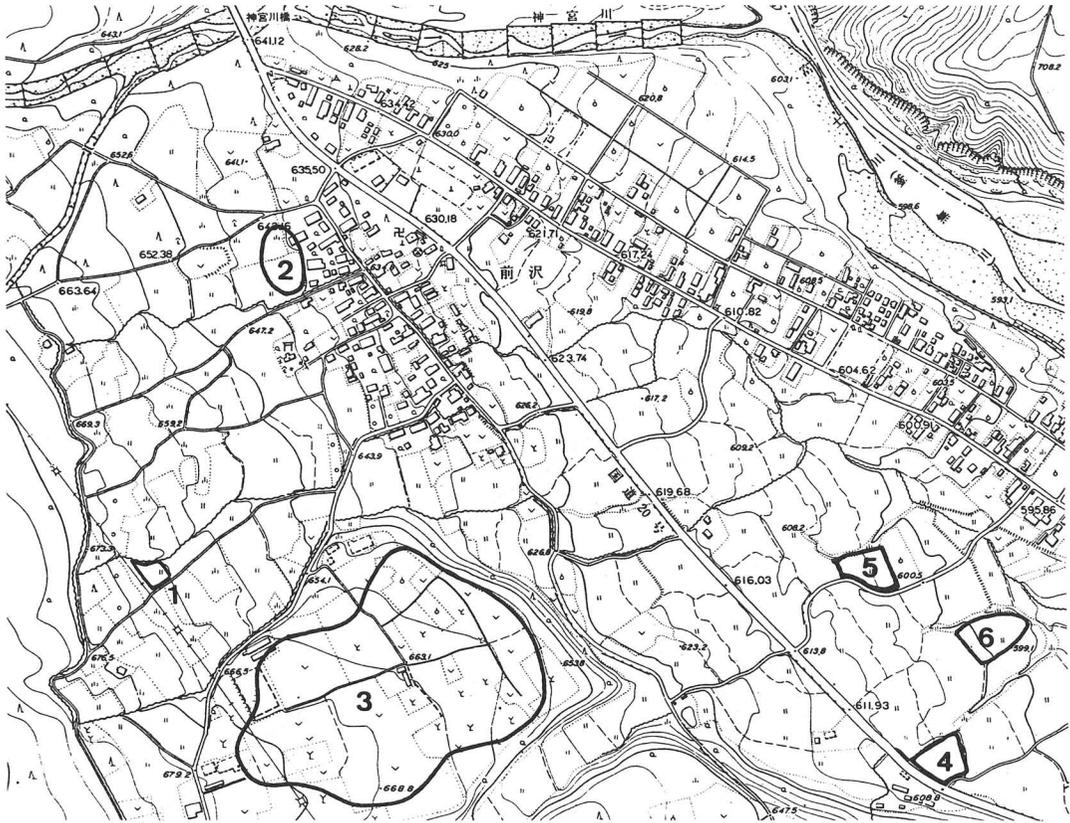
### 2 節 概 観

本調査では、平安時代の竪穴住居址7軒がかなり狭い範囲で検出されている。規模的には、上記の坂下・所帯遺跡と同程度であり、同様に出作り集落が想定される。違いとしては、中世の「円形土坑」が検出されなかったことがあげられる。

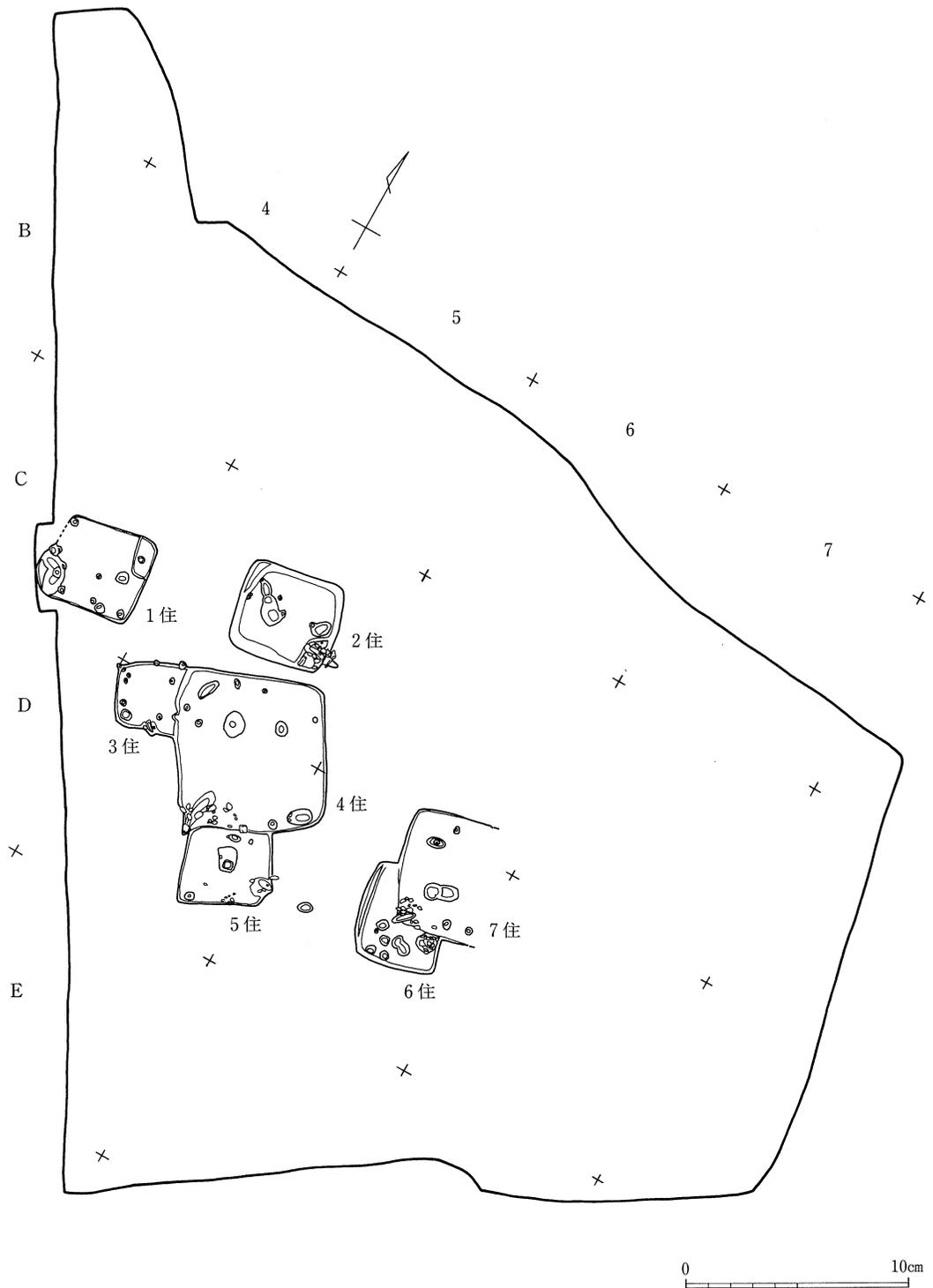
縄文時代においては、遺物だけなので遺跡の規模等は掴みがたい。しかし、最近西に広がる山林地帯では別荘地化が進み各時期の縄文土器などが発見され少しずつ本址周辺の遺跡が確認されはじめている。



第2図 調査区位置図 (1/5,000)



第3図 周辺の遺跡 (1/10,000)



第4図 全体図 (1/300)

## III章 遺構と遺物

### 1 節 縄文時代の遺構と遺物

本遺跡の縄文時代の遺構は、平安時代の2号住居址の貼り床下から検出されたピット(P-1)のみである。ピットからは、縄文時代前期末の土器片が出土している。調査区の東側は、水田造成時の埋土部分であり埋土中には縄文時代中期後半の遺物が多量含まれていた。

また、平安時代の1号住居址の覆土中には、若干縄文時代晩期の土器が検出された。図示した遺物(第5～8図)については、すべて遺構外か平安時代の住居址の覆土中から出土したものである。

### 2 節 平安時代の遺構と遺物

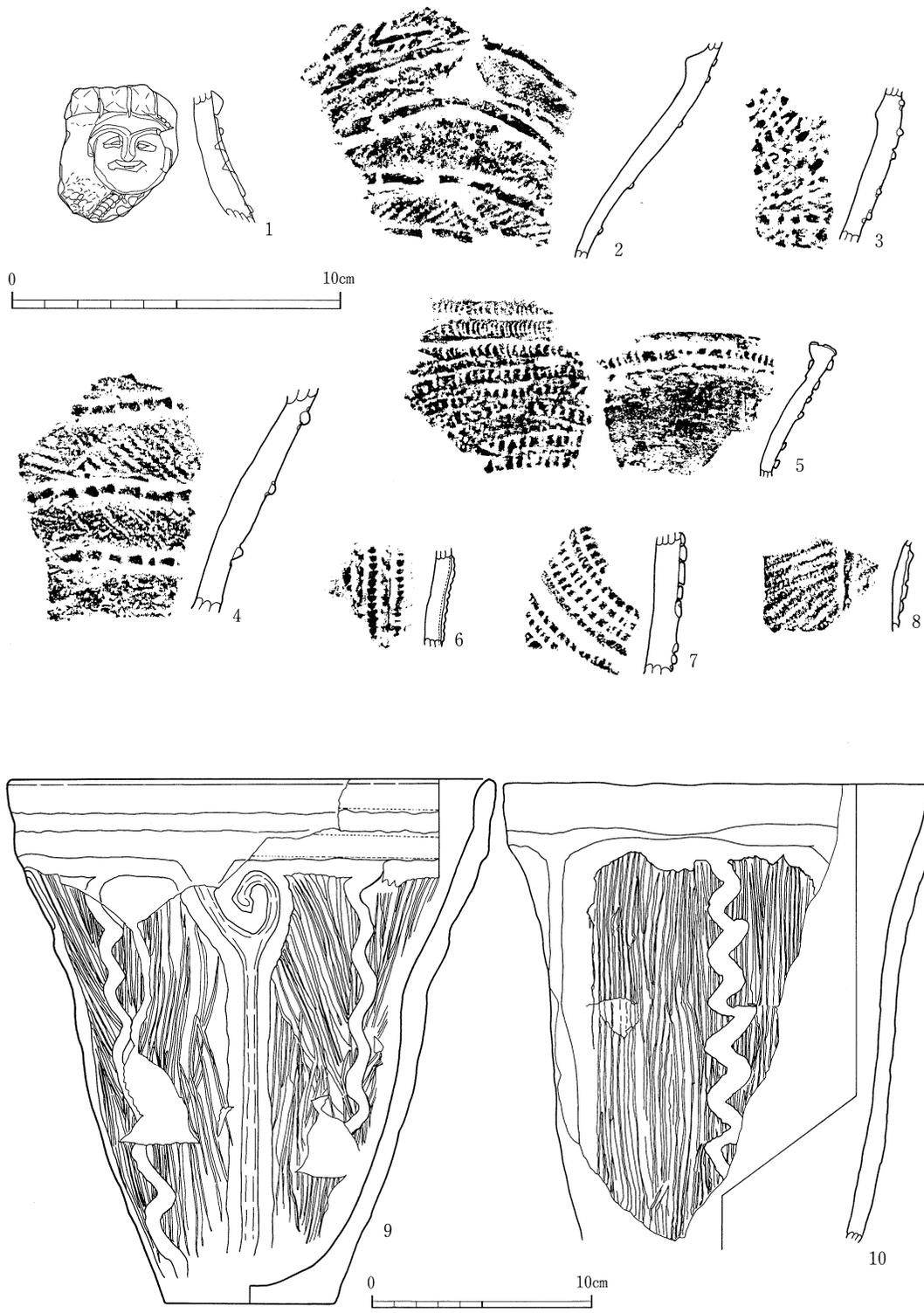
本遺跡からは、平安時代の竪穴住居址7軒が検出された。7軒は、狭い調査区内の中央部に密集していて、3・4・5号住居址と6・7号住居址がそれぞれ重複関係にある。壁高は、2号住居址を除き、15cm程である。柱穴と思われるピットは、ほとんどが深さ10～15cm程であった。遺物は、調査区北西部に若干見られた他は住居址出土のものが大半を占める。

#### 1号住居址(第9図)

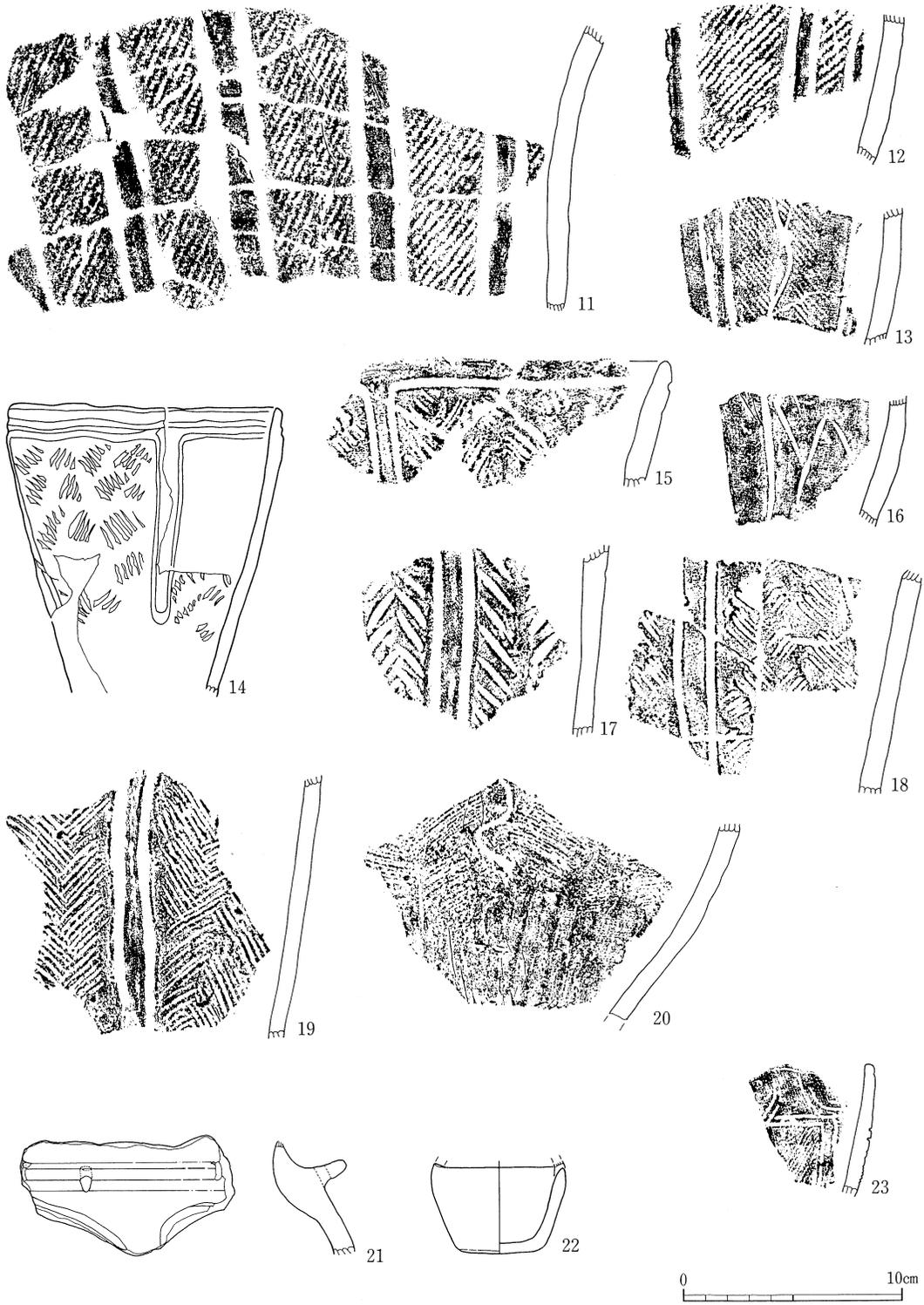
調査区西側、C-4区に位置する。西辺が削平を受けたのと、重複しあった土坑により破壊されている。隅丸方形を呈し、4.3×3.9mを測る。覆土は、炭化材と焼土を含む暗褐色土である。カマドは、遺存状態がかなり悪かったが、焼土と礫から東南隅と推定された。

#### 2号住居址(第10図)

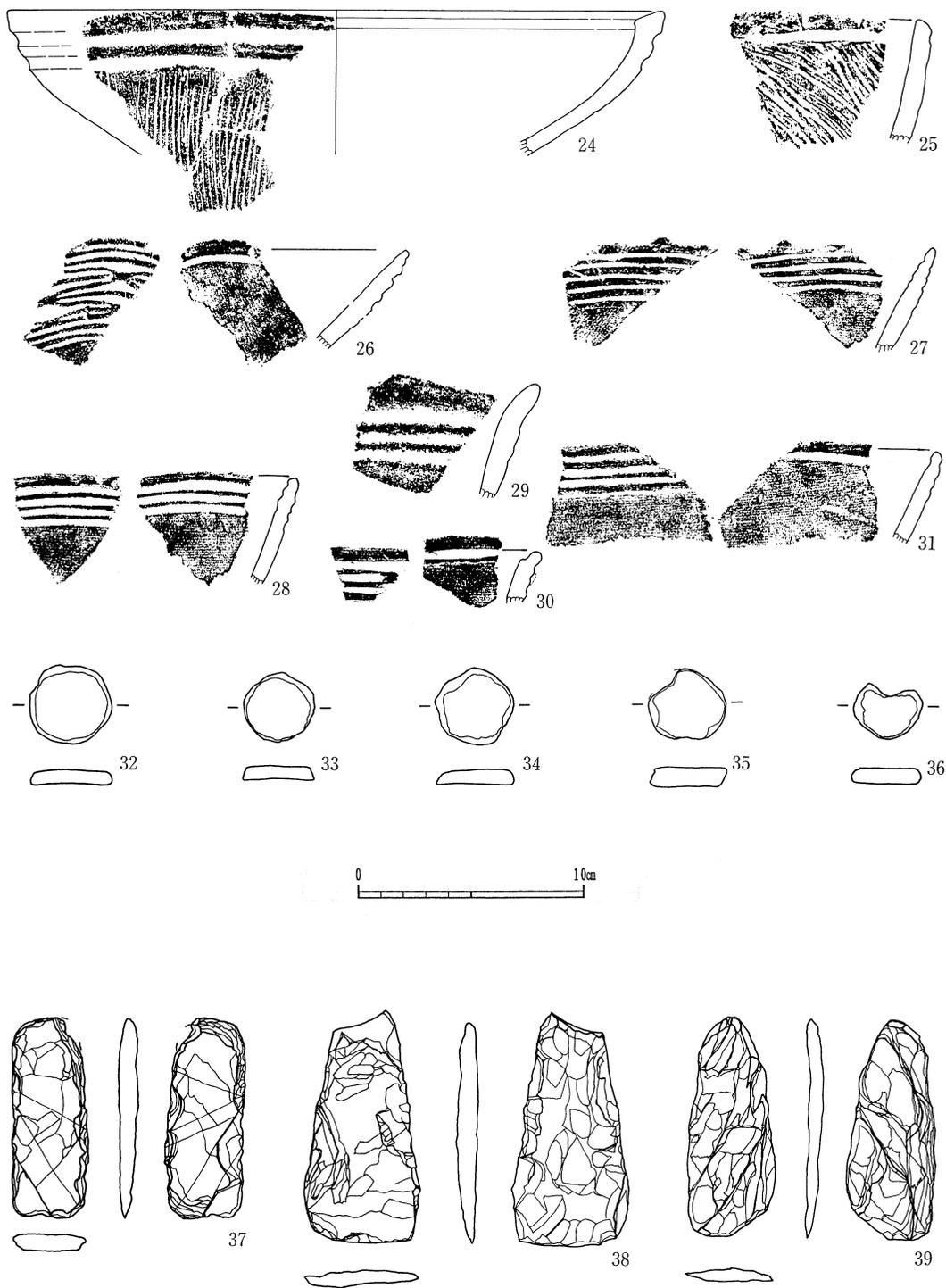
調査区中央西側、C-5区に位置する。隅丸方形を呈し、4.6×4.2mを測る。中心から放射状に炭化材が検出され、焼失住居と推定される。カマドは、東南隅に礫を中心に構築されていた。カマドの北に隣接しているピット(P-2)には、多量の灰が充填されていた。西側2/3が、厚さ20cm前後のロームによる貼り床となっていた。貼り床の下からピット(P-1)が検出されたが、これは縄文時代に属するものと推定された。



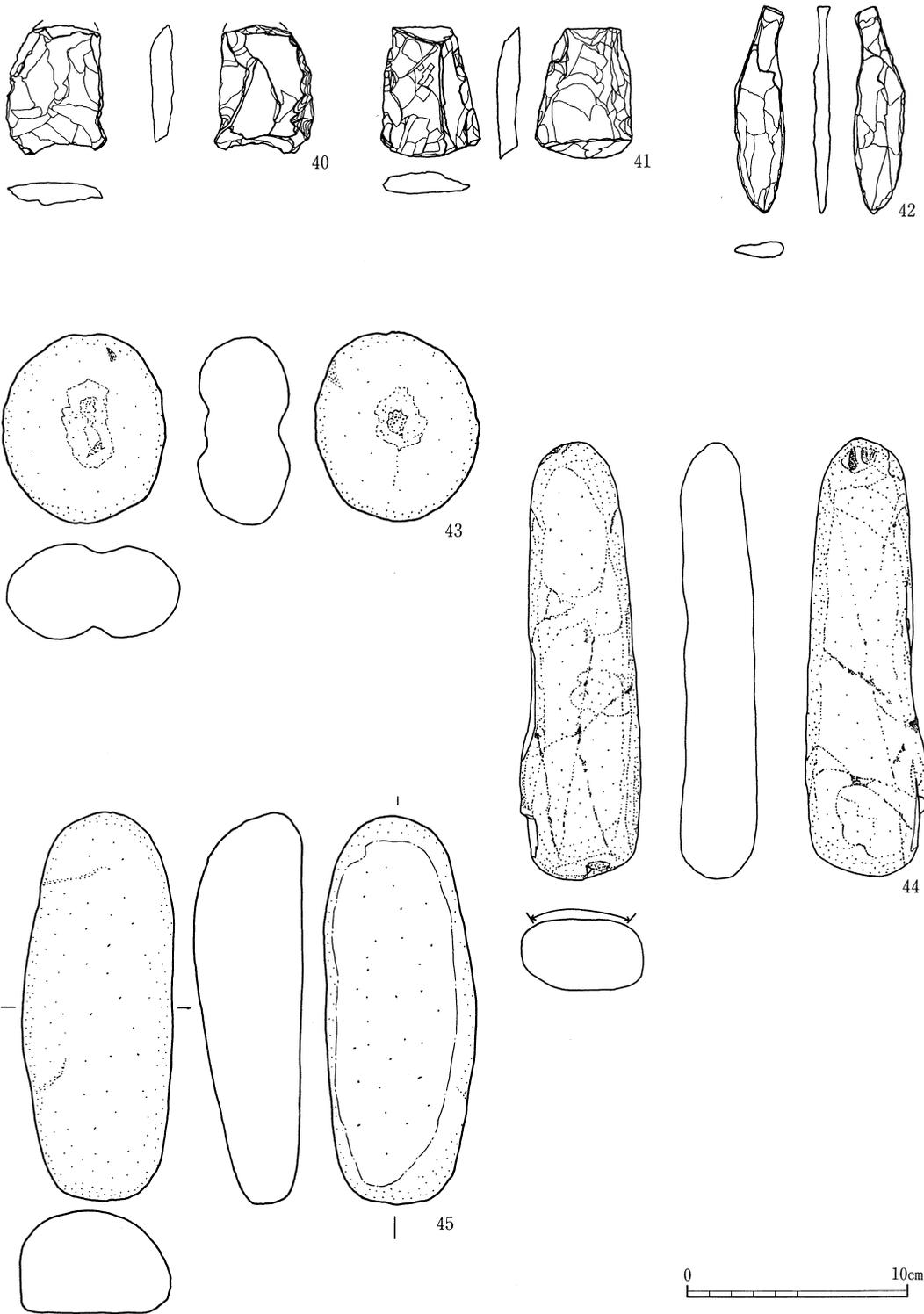
第5図 縄文時代の出土遺物① (1/2) 9・10=1/3



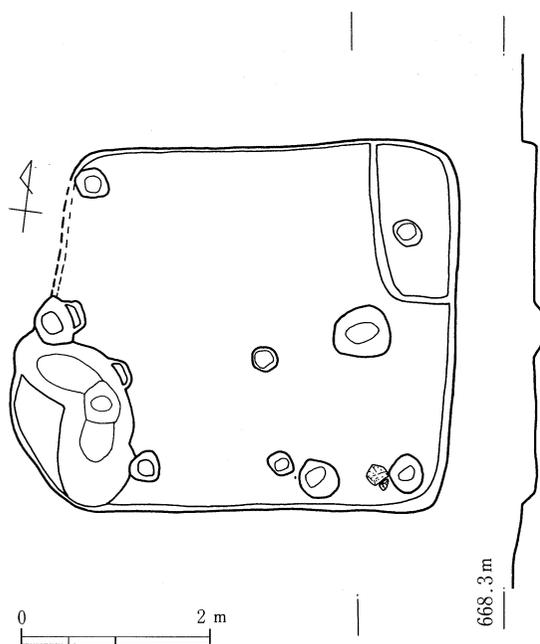
第6図 縄文時代の出土遺物②(1/3)



第7図 縄文時代の出土遺物③ (1/3)



第8図 縄文時代の出土遺物④ (1/3)



第9図 1号住居址 (1/80)

### 3号住居址 (第11図)

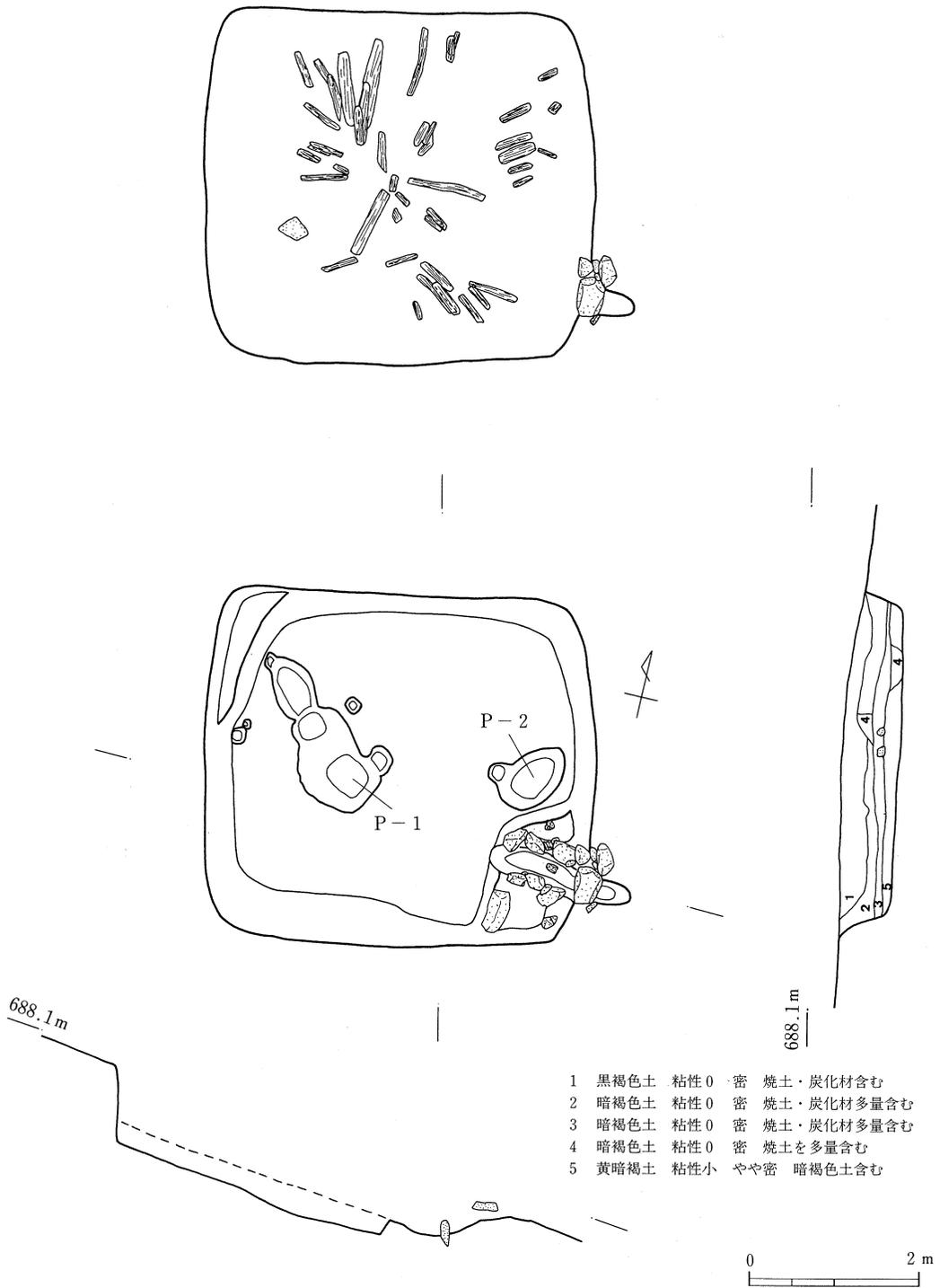
調査区西側、C・D-5区に位置する。4号住居址に東辺を切られている。隅丸方形を呈し、本調査では最小規模で3.1×4.1mを測る。覆土は、砂礫を含む暗褐色土である。カマドは、南壁中央部で粘土を中心に構築されていた。

### 4号住居址 (第11図)

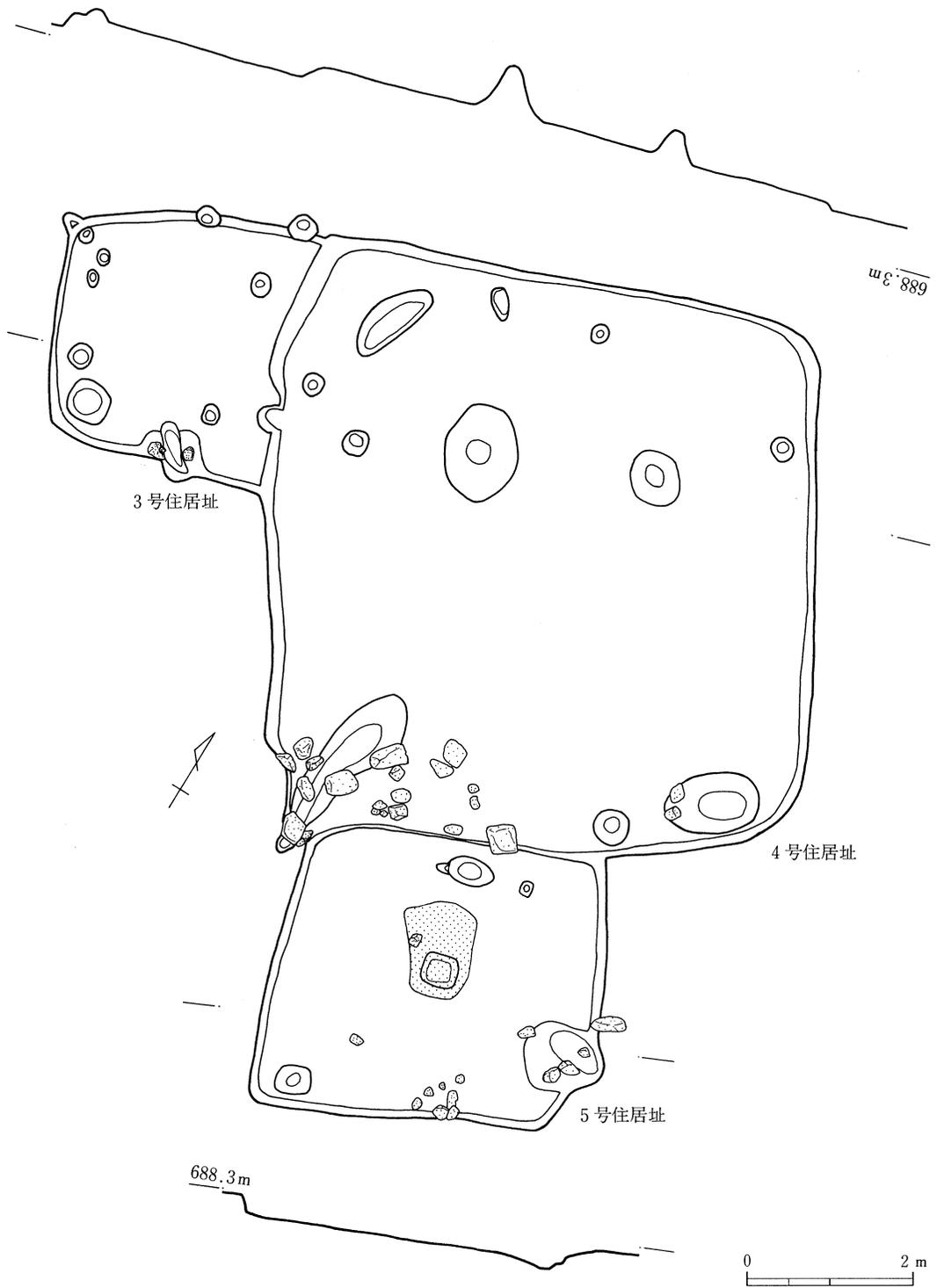
調査区中央西側、C・D-5・6区に位置する。3号住居址と5号住居址を切っている。隅丸方形を呈し、本調査では最大規模で7.1×6.6mを測る。覆土は、砂礫を含む暗褐色土である。カマドは、西南隅に礫を中心に構築されていた。カマドの煙道の蓋には、縄文時代の石皿が転用されていた。

### 5号住居址 (第11図)

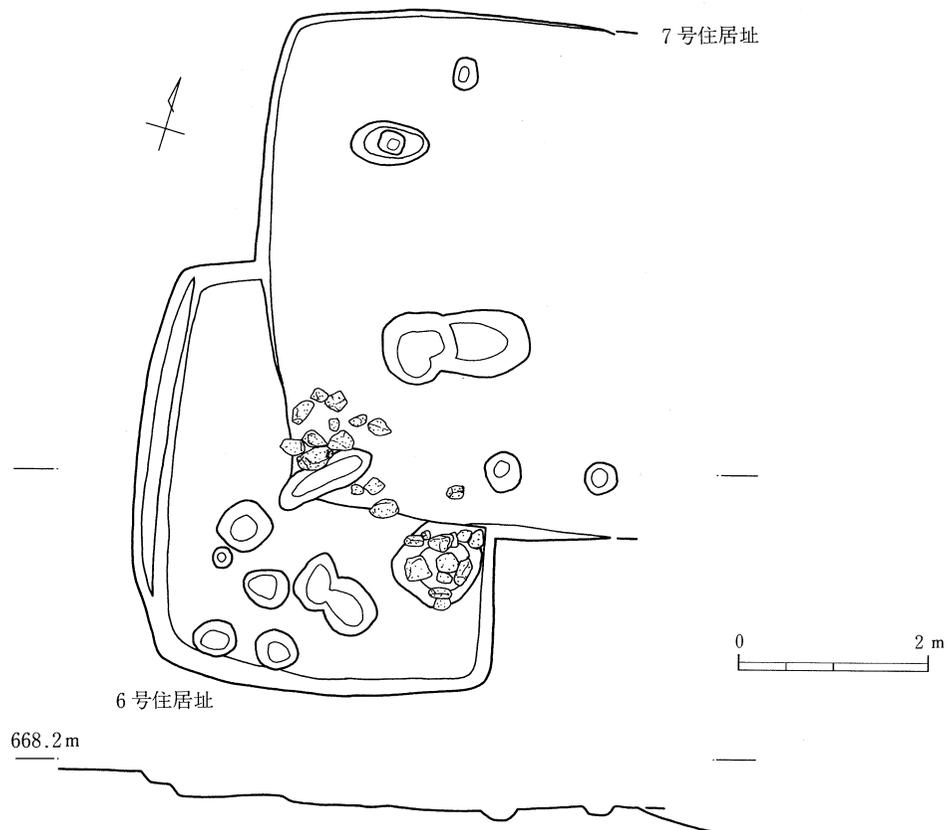
調査区中央西側、D-5・6区に位置する。4号住居址に北辺を切られている。隅丸方形を呈し、4×3.5mを測る。覆土は、砂礫を含む暗褐色土である。カマドは、東壁南寄りに構築されていた。中央部分には、ロームによる貼り床がなされていた。また、貼り床の下からピットが検出された。



第10図 2号住居址 (1/80)



第11图 3·4·5号住居址 (1/80)



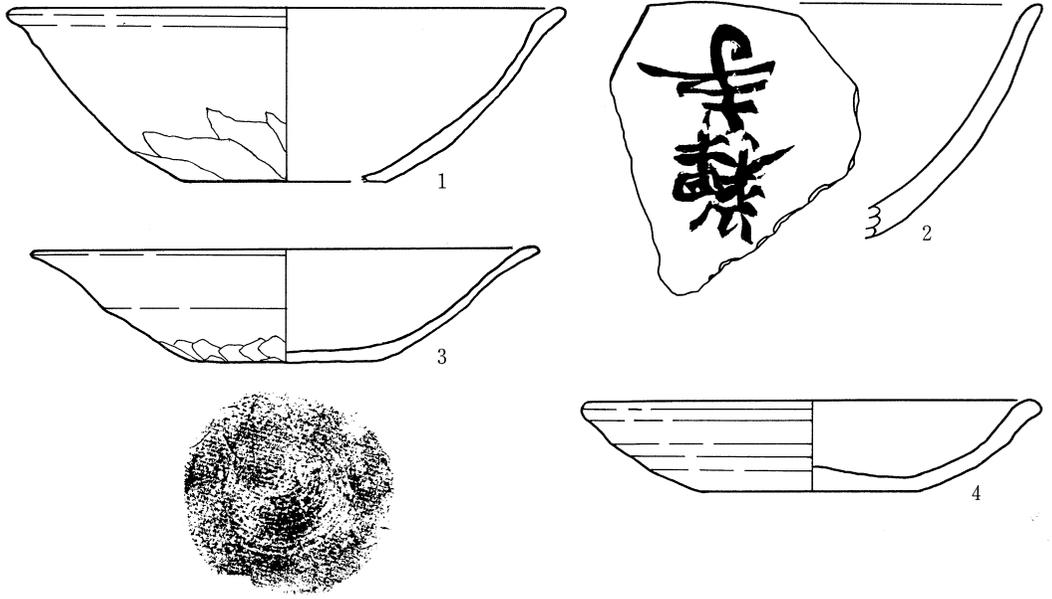
第12図 6・7号住居址 (1/80)

6号住居址 (第12図)

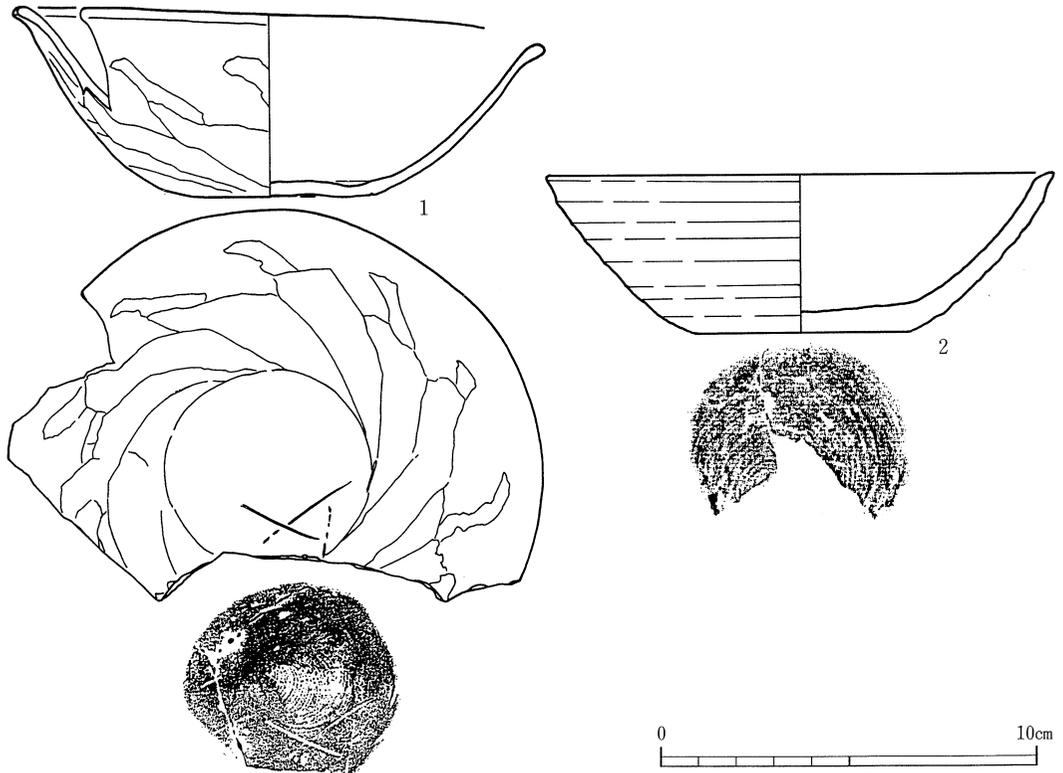
調査区中央東側、D-6区に位置する。北東部1/4程度を7号住居址に切られている。隅丸長方形を呈し、4.5×3.9mを測る。覆土は、砂礫を含む暗褐色土である。カマドは、礫と焼土から東壁南寄りにあったと推定される。遺物はほとんどみられず、図示した2点の遺物(第21図)については、7号住居址との境界で出土しており、本址に帰属するものか疑問がある。

7号住居址 (第12図)

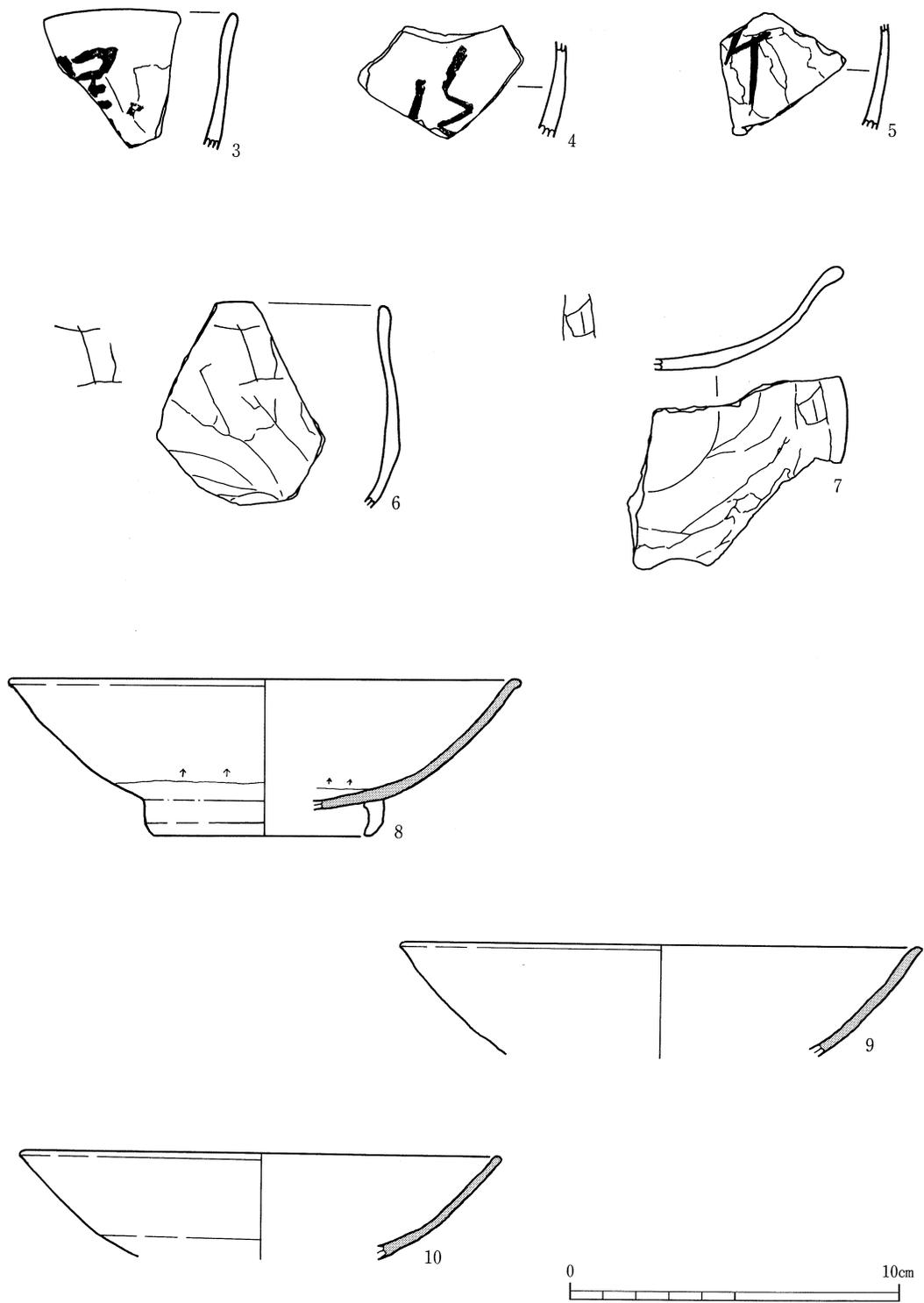
調査区中央西側、C・D-6区に位置する。隅丸方形を呈し、5.5×4mを測る。覆土は、砂礫を含む暗褐色土である。カマドは、南西隅に礫を中心に構築されているが、かなり破壊されていた。



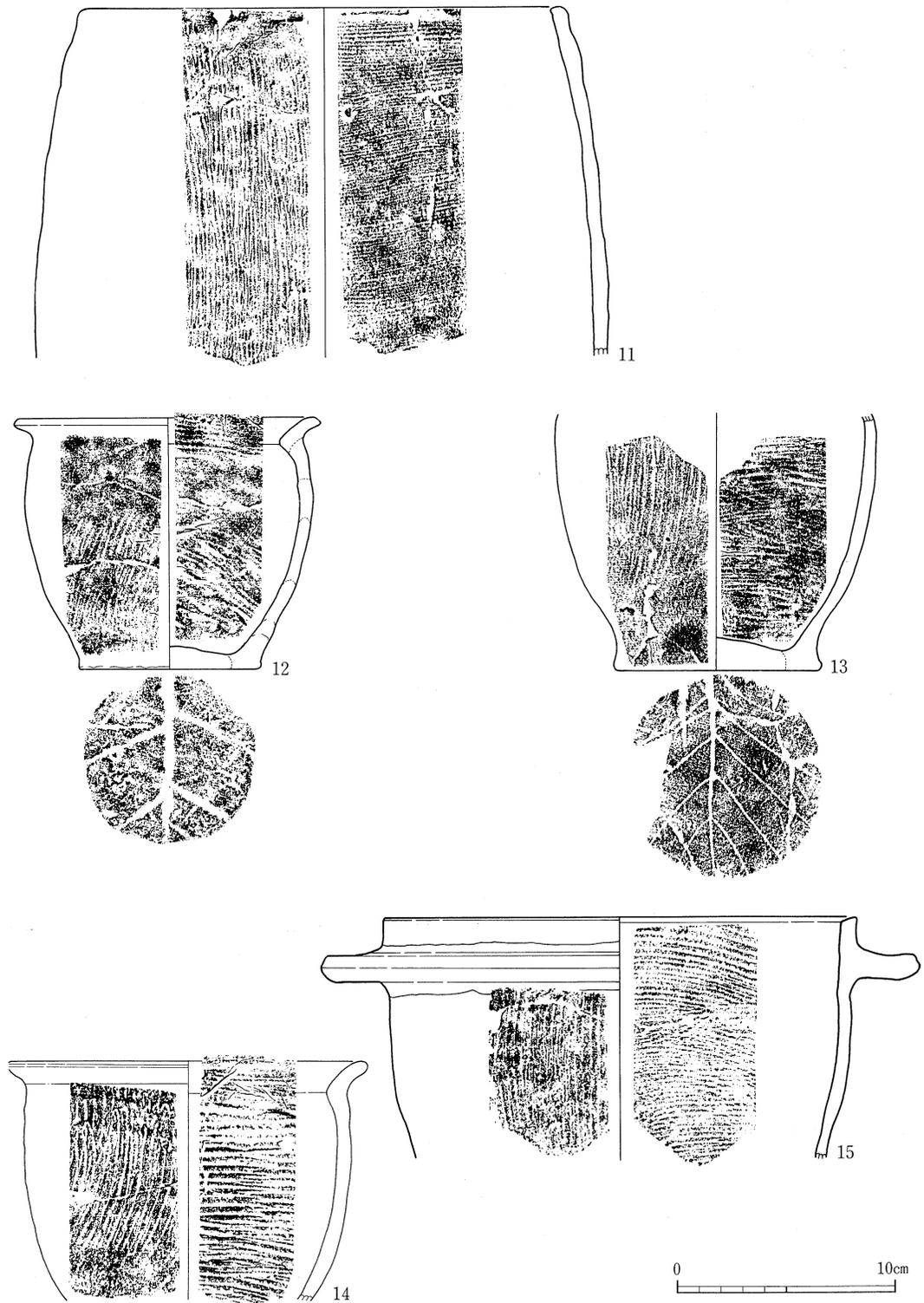
第13図 1号住居址出土遺物(1/2)



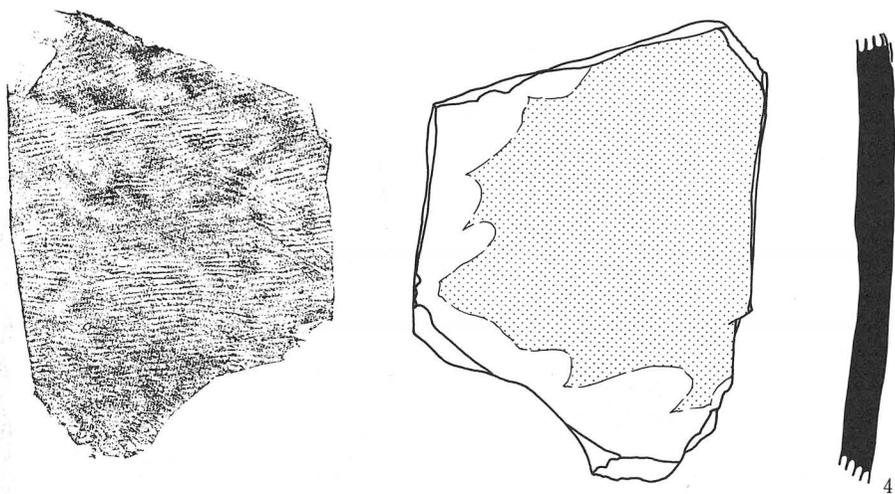
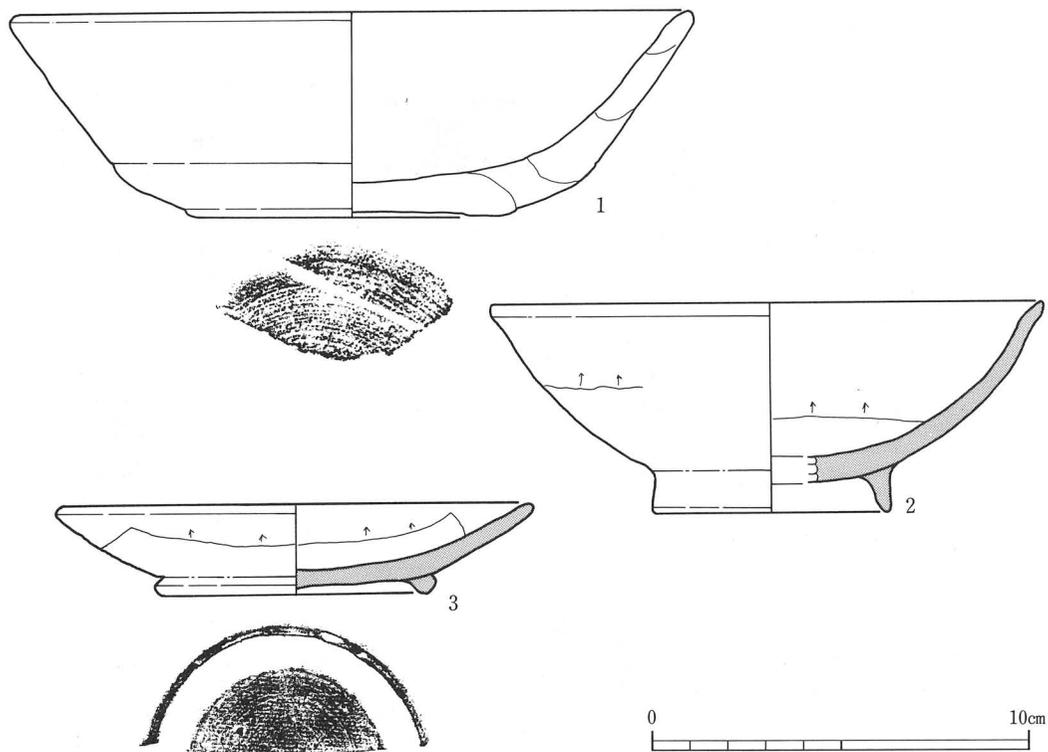
第14図 2号住居址出土遺物①(1/2)



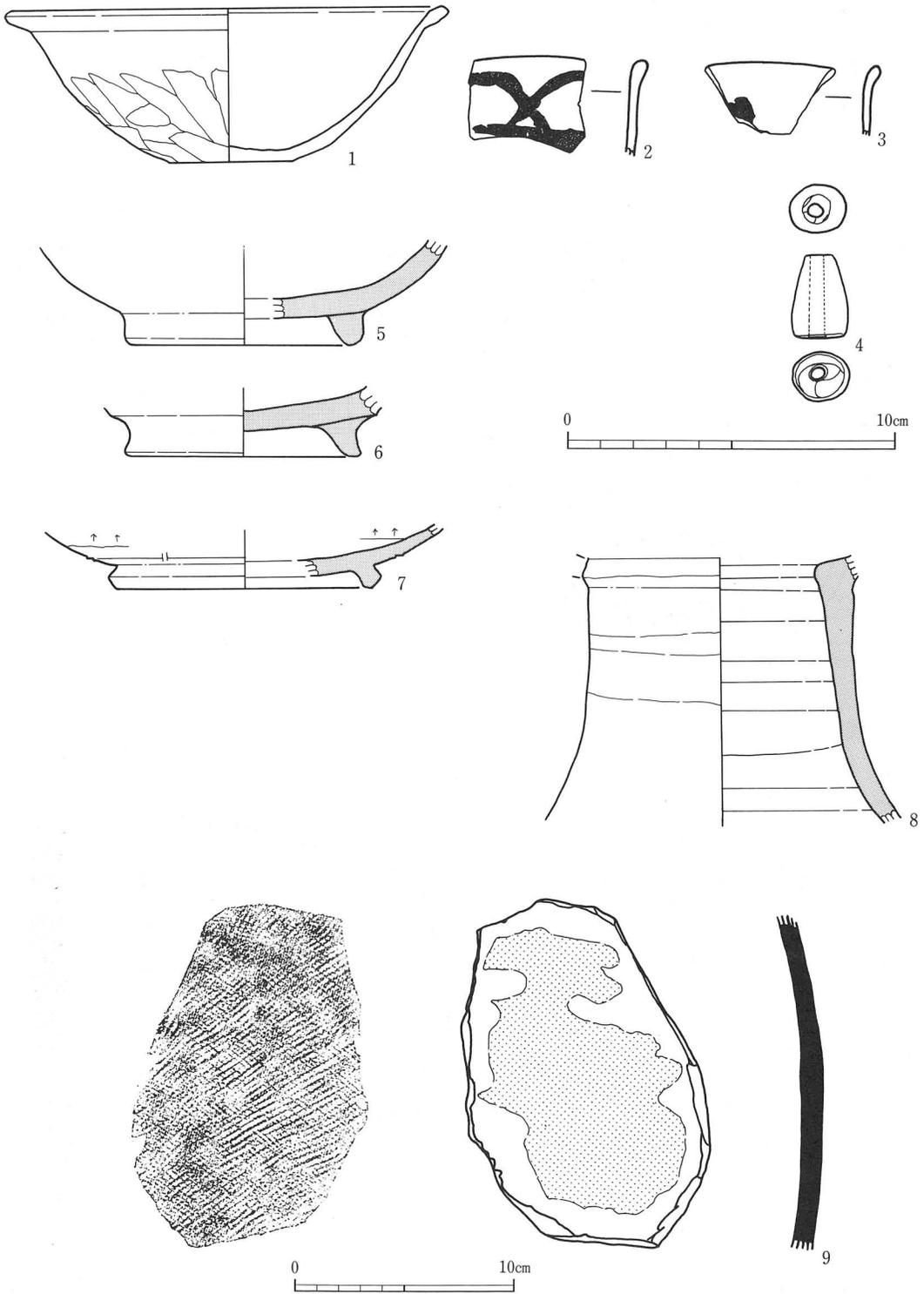
第15图 2号住居址出土遺物②(1/2)



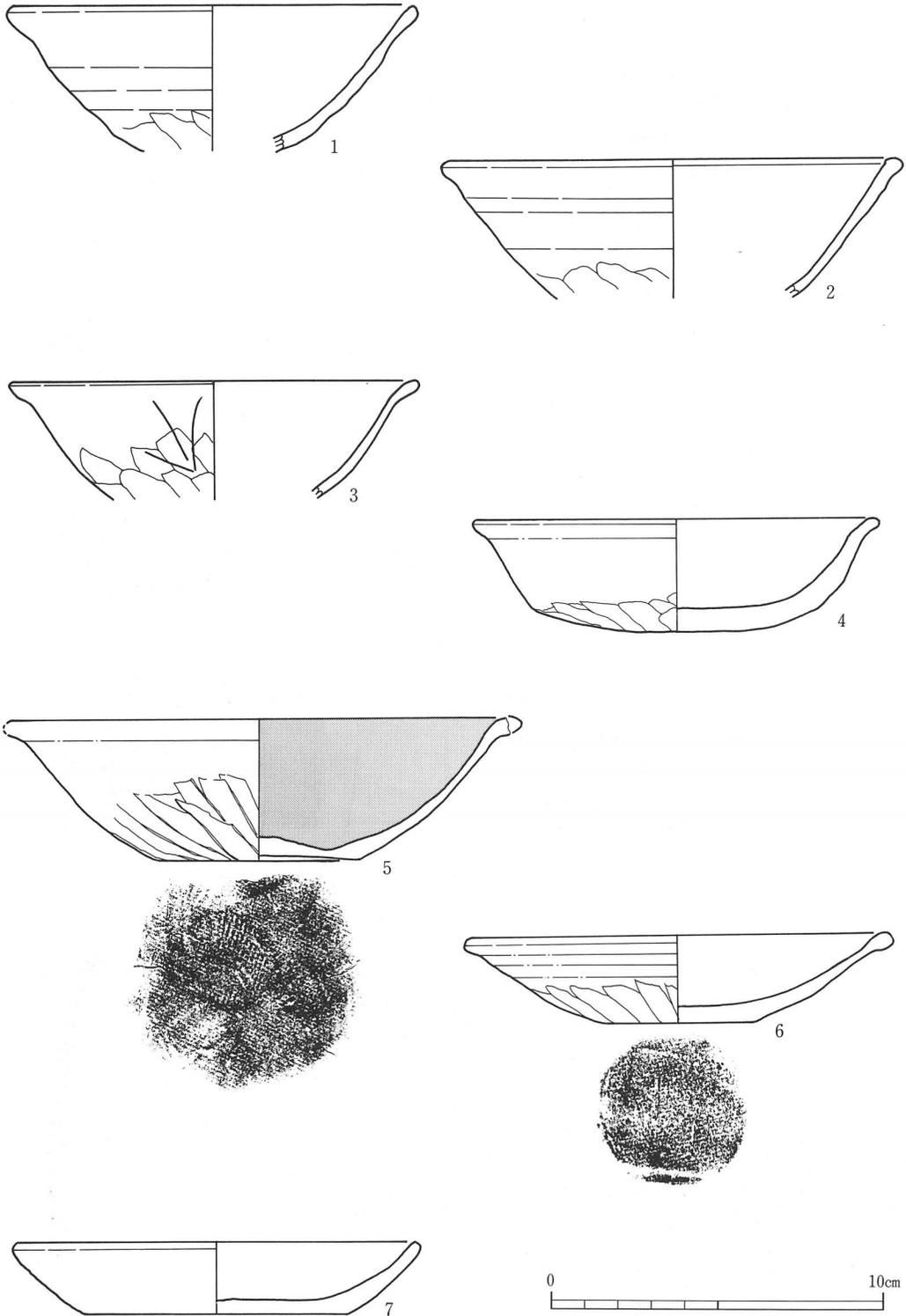
第16图 2号住居址出土遺物③(1/3)



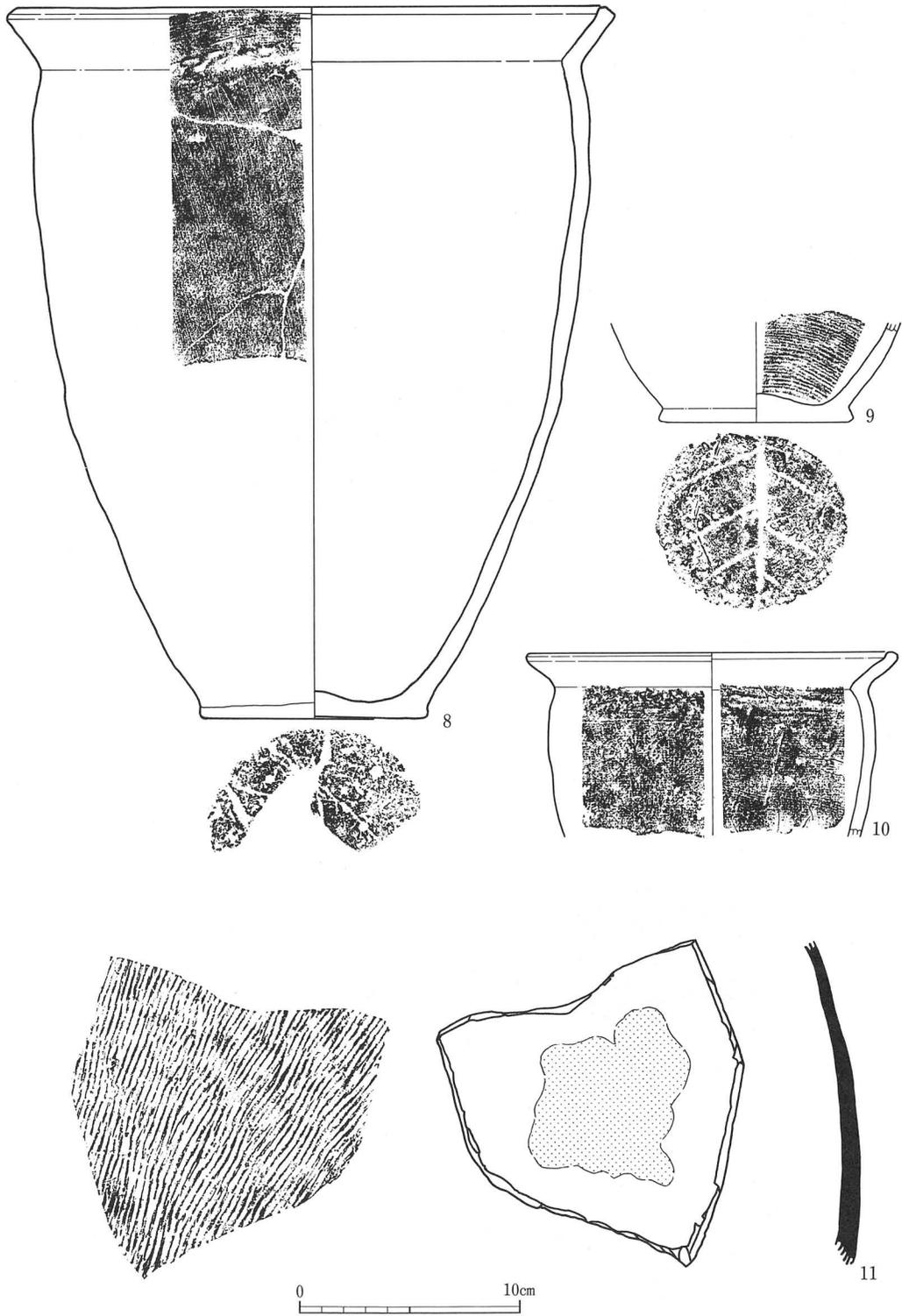
第17图 3号住居址出土遺物 (1/2) 4 = 1/3



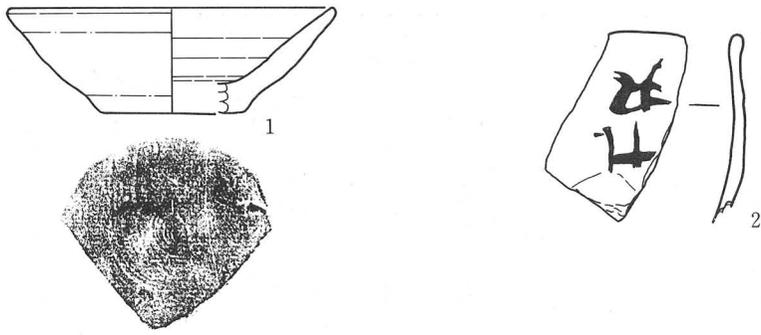
第18图 4号住居址出土遺物(1/2) 8・9=1/3



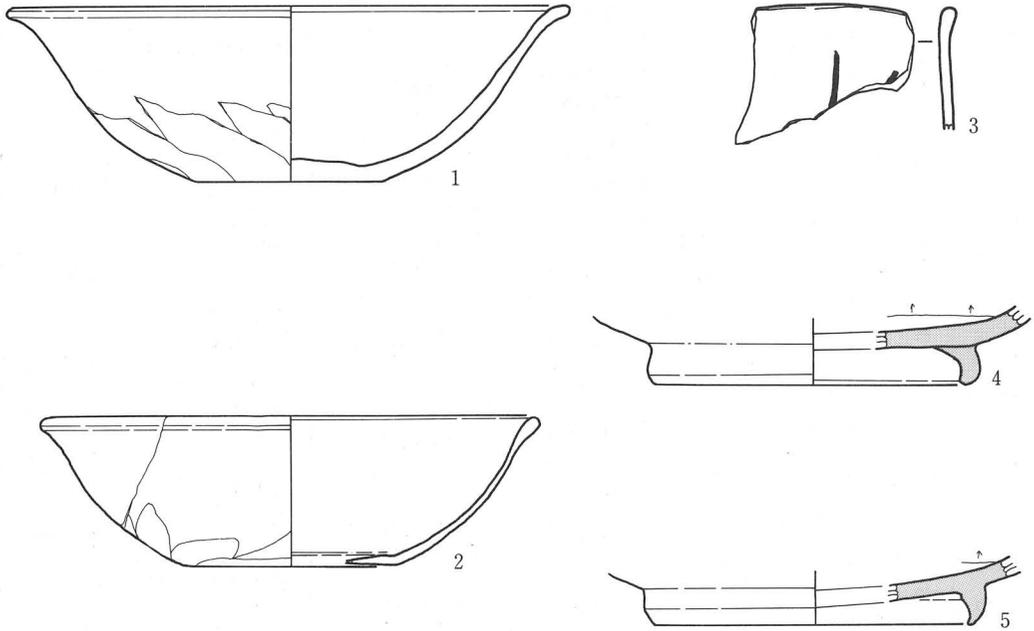
第19図 5号住居址出土遺物① (1/2)



第20图 5号住居址出土遺物②(1/3)



第21图 6号住居址出土遺物 (1/2)



第22图 7号住居址出土遺物 (1/2)

第1表 縄文時代の出土遺物一覧表 (第5～8図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子含む	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	胴部肩上破片 顔面付 縄文地文 押し引き凸帯文 前期末
2	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR6/6)	縄文地文 貼付凸帯 前期末
3	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子含む	にぶい橙色 (5YR7/4)	縄文地文 押し引き凸帯文 前期末
4	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR7/3)	縄文地文 押し引き凸帯文 前期末
5	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	口縁部台形状突起破片 縄文地文 口唇部押し引き 押し引き凸帯文 前期末
6	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (2.5YR6/6)	特殊凸帯文 前期末
7	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 黒雲母含む	橙色 (5YR6/6)	押し引き凸帯(断面が角) 前期末
8	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	縄文地文 貼付凸帯(凸帯上刻み目) 前期末
9	縄土 文器	深鉢	(22.2) 7.8 24.0	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	条線地文 蛇行沈線 中期後半
10	縄土 文器	深鉢	(19.8) — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	条線地文 蛇行沈線 中期後半
11	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	黄橙色 (10YR8/6)	縄文地文 縦沈線 中期後半
12	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	縄文地文 縦沈線 中期後半
13	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	縄文地文 縦沈線 蛇行沈線 中期後半
14	縄土 文器	深鉢	(14.2) — —	密 白色粒子 雲母含む	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	櫛歯状工具による沈線 中期後半
15	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	ハの字文 中期後半
16	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	ハの字状 中期後半

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
17	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	淡橙色 (5YR8/3)	ハの字文  中期後半
18	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	ハの字文  中期後半
19	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	綾杉状条線  中期後半
20	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (2.5YR6/8)	綾杉状条線  中期後半
21	縄土 文器	有鋳孔付	6.1 3.0 —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	  時期不明
22	縄土 文器	ミニチュア	— — —	密 白色粒子 雲母含む	にふい橙色 (5YR6/4)	器面研磨  時期不明
23	縄土 文器	深鉢	(14.9) 6.0 5.1	密 白色粒子 赤色粒子雲母	橙色 (5YR6/8)	  時期不明
24	縄土 文器	浅鉢	(29.8) — —	密 白色粒子含む	にふい橙色 (5YR7/3)	口縁部横位沈線 縦条線  中期後半
25	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR7/6)	口縁部横位沈線 縦条線  晩期後半
26	縄土 文器	浅鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (10YR8/4)	浮線網状文  晩期後半
27	縄土 文器	浅鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	褐灰色 (5YR5/1)	口縁部横位沈線  晩期後半
28	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	明赤褐色 (5YR6/8)	口縁部横位沈線  晩期後半
29	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	波状口縁 口縁部横位沈線  晩期後半
30	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子 赤色粒子雲母	極暗赤褐色 (7.5YR2/2)	浮線網状文？ 表裏に赤い塗料が微量付着 晩期後半
31	縄土 文器	深鉢	— — —	密 白色粒子含む	にふい黄橙色 (10YR7/3)	口縁部横位沈線  晩期後半
32	縄土 文器	土円製盤	長3.6 短3.5 厚0.7	密 白色粒子 雲母含む	明褐灰色 (7.5YR7/2)	  晩期後半？

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
33	縄土 文器	土円 製盤	長 3.2 短 3.1 厚 0.6	密 白色粒子 雲母含む	にふい黄橙色 (7.5YR1.7/1)	晩期後半?
34	縄土 文器	土円 製盤	長 3.6 短 3.5 厚 0.7	密 白色粒子 雲母含む	にふい橙色 (7.5YR7/3)	晩期後半?
35	縄土 文器	土円 製盤	長 3.5 短 3.2 厚 0.9	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	晩期後半?
36	縄土 文器	土円 製盤	長 3.1 短 — 厚 0.8	密 白色粒子 雲母含む	にふい橙色 (7.5YR7/4)	晩期後半?
37	石器	打石 製斧	長 9.0 短 3.4 厚 0.9			ホルンフェルス 45 g
38	石器	打石 製斧	長 10.5 短 5.2 厚 0.9			砂岩 61 g
39	石器	打石 製斧	長 9.8 短 3.9 厚 0.7			砂岩 35 g
40	石器	打石 製斧	長 5.5 短 4.3 厚 0.9			砂岩 35 g
41	石器	打石 製斧	長 6.0 短 4.3 厚 1.0			砂岩 39 g
42	石器	石 匙	長 9.9 短 2.2 厚 0.8			結晶片岩 19 g.
43	石器	凹石	長 8.5 短 7.3 厚 4.0			安山岩 303 g
44	石器	叩石	長 19.8 短 5.4 厚 3.5			砂岩 559 g
45	石器	叩石	長 17.5 短 6.7 厚 4.8			安山岩 928 g

第2表 1号住居址出土遺物(第13図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	14.8 5.4 4.7	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り 1/4残
2	土師器	坏	— — —	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/4)	外ロクロ撫で 墨書 内ロクロ撫で ミガキ 底回転糸切ヘラ削り 1/8残

3	土師器	皿	13.6 5.5 3.0	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (2.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 放射状暗文 底回転糸切へら削り 1/2残
4	土師器	皿	(12.2) 5.8 2.4	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 底へら削り 1/4残

第3表 2号住居址出土遺物(第14・15・16図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	(13.8) 5.5 4.8	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 底回転糸へら 線刻? 2/3残
2	土師器	坏	(11.4) 4.5 4.1	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 黒色研磨 底回転糸切 1/4残
3	土師器	坏	— — —	赤色粒子 砂粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外ロクロ撫で下半へら墨書 内ロクロ撫で
4	土師器	坏	— — —	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半へら墨書 内ロクロ撫で
5	土師器	坏	— — —	白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で下半へら墨書 内ロクロ撫で
6	土師器	坏	— — (3.8)	赤色粒子 白色粒子砂粒	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外ロクロ撫で下半へら刻書 内ロクロ撫で
7	土師器	坏	— — (2.9)	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で下半へら刻書 内ロクロ撫で
8	灰陶 釉器	碗	(15.6) (6.6) 4.8		灰白色 (10Y8/1)	底付高台 1/4残
9	灰陶 釉器	碗	(16.0) — —		灰白色 (5Y7/1)	1/5残
10	灰陶 釉器	碗	(14.8) — —		灰白色 (7.5Y8/1)	1/6残
11	土師器	甕	(22.0) — —	白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	口縁部直立 外縦刷毛目 内横刷毛目
12	土師器	甕	(14.2) 8.4 11.6	白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕 2/3残
13	土師器	甕	— (9.6) —	白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕

14	土師器	甕	(16.6) — —	白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目
15	土師器	羽 釜	(21.8) — —	密 白色粒子含む	橙色 (2.5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目

第4表 3号住居址出土遺物(第17図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	(18.2) ( 8.8) 5.4	雲母 黒色粒子含む 甕類と同じ土	橙色 (7.5YR7/6)	外クロク撫で 内クロク撫で 底回転糸切
2	灰 釉 陶 器	碗	(14.7) ( 6.4) 5.6		灰白色 (5Y8/1)	底付高台 1/3残
3	灰 釉 陶 器	皿	(11.8) 4.3 3.7		灰白色 (10Y8/1)	底回転糸切り付高台 1/2残
4	須恵器	転用硯	長18.1 短13.0 厚 1.5	白色粒子含む	暗青灰色 (5B4/1)	外叩目 内刷毛目 使用痕

第5表 4号住居址出土遺物(第18図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	13.6 3.8 4.7	密 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外クロク撫で下半へら削り 内クロク撫で 底へら削り 1/2残
2	土師器	坏	— — —	赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR7/6)	外クロク撫で 墨書 内クロク撫で
3	土師器	坏	— — —	密 赤色粒子 白色粒子含む	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外クロク撫で 墨書 内クロク撫で
4	土製品	土 錘	長 2.6 短 1.7 孔 0.4	密 赤色粒子含む	浅黄橙色 (10YR8/3)	
5	灰 釉 陶 器	碗	— ( 7.0) —		灰白色 (2.5Y8/2)	底付高台
6	灰 釉 陶 器	碗	— ( 7.2) —		灰白色 (2.5Y8/2)	底付高台
7	灰 釉 陶 器	皿?	— ( 8.0) —		灰白色 (2.5Y8/2)	底付高台
8	灰 釉 陶 器	長頸瓶	— — —		灰白色 (2.5Y8/2)	頸部破片 外クロク撫で 内クロク撫で

9	須恵器	転用硯	長16.6 短10.4 厚 1.0	白色粒子 雲母含む	灰色 (10Y6/1)	外叩目 内刷毛目 使用痕
---	-----	-----	-------------------------	--------------	----------------	-----------------

第6表 5号住居址出土遺物(第19・20図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	(14.0) — —	赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で
2	土師器	坏	(12.4) — —	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外撫で下半へら削り 刻書 内ロクロ撫で
3	土師器	坏	(12.1) — —	赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	外撫で下半へら削り 刻書 内ロクロ撫で
4	土師器	坏	12.4 3.8 3.4	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 煤付着 底へら削り 3/4残
5	土師器	坏	(15.5) (6.0) 4.3	赤色粒子 白色粒子雲母	にふい橙色 (5YR6/4)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 黒色処理 底回転糸切へら削り 1/4残
6	土師器	皿	13.0 4.6 2.7	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底へら削り 2/3残
7	土師器	坏	(12.4) 8.0 2.2	白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底へら削り 1/4残
8	土師器	甕	27.4 (10.0) 32.0	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR6/8)	外縦刷毛目 内撫で 底木葉痕 1/3残
9	土師器	甕	— 8.8 —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外撫で 内横刷毛目 底木葉痕
10	土師器	甕	16.8 — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
11	須恵器	転用硯	長14.7 短13.2 厚 0.9	白色粒子 雲母含む	オリーブ灰色 (2.5Y4/3)	外叩目 内撫で 使用痕

第7表 6号住居址出土遺物(第21図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	皿	8.4 4.0 2.8	やや密 白色粒子 雲母含む	にふい橙色 (7.5YR6/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 7住との境で出土
2	土師器	坏	— — —	赤色粒子 白色粒子雲母	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 墨書 7住との境で出土

第8表 7号住居址出土遺物（第22図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	15.0 5.0 4.7	赤色粒子含む	橙色 (2.5YR6/6)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 底へら削り 1/2残
2	土師器	坏	(13.4) (5.8) 4.0	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で下半へら削り 内ロクロ撫で 底回転糸切へら削り
3	土師器	坏	— — —	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 墨書
4	灰陶 釉器	碗	— (8.4) —		灰白色 (7.5Y8/1)	底付高台
5	灰陶 釉器	碗	— (8.4) —		灰白色 (2.5Y8/1)	底付高台

## IV章 ま と め

本調査では、平安時代の竪穴住居址7軒がかなり狭い範囲で検出されている。縄文時代においても、前期末から中期、後晩期と連続する土器が発見されていたため、当初はかなり規模の大きい集落の一部が周囲より僅かに高かったため残されたのではないかと推定していた。

しかし、縄文土器もかなり時期に間隔が開き、また北原遺跡などとの位置関係からも、大きな集落を想定することが困難になってきている。本調査の以後も圃場整備事業が進み、本址周辺の水田は大きな区画に造成されている。事前の試掘調査により田沢川の氾濫の痕跡を確認すること、このような危険な地帯には大きな集落は作られないのではと思うようになっている。

### 参考文献

- 白州町誌編纂委員会 1986 『白州町誌』 白州町  
折井 敦 1988 『坂下遺跡』 白州町教育委員会  
折井 敦 1989 『所帯 I 遺跡・所帯 II 遺跡』 白州町教育委員会  
杉本 充 1991 『屋敷平遺跡』 白州町教育委員会



# 版 图





遠景（東から）



全景（遺構確認面 南西から）

図版 2



全 景 (北西から)



近 景 (北西から)



1号住居址



2号住居址 カマド

图版 4



2号住居址 (炭化材出土状态)



2号住居址



3号住居址



4号住居址

図版 6



5号住居址



6 (前)・7 (後)号住居址



1号住居址出土墨書土器（赤外線TVから）



縄文時代前期末の土器（4／5）

報告書抄録

ふりがな	ぞうきいせき							
書名	雑木遺跡							
副書名								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	杉本 充							
編集機関	白州町教育委員会							
所在地	〒408-03 山梨県北巨摩郡白州町白須312 TEL0551-35-2800							
発行年月日	1997年3月20日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぞうきいせき 雑木遺跡	やまなしけん 山梨県 きたこまぐん 北巨摩郡 はくしゅうちょう 白州町 しらすあざどうき 白須字雑木 6107・6109	194085		35° 48' 46"	138° 19' 5"	19920428 ) 19920529	1,200	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
雑木遺跡	集落址	縄文時代末期 中期後 晩期 平安時代	土坑  竪穴住居址7軒	土器 石器  土師器		縄文時代前期末の 人面土器片が出土		

## 雑木遺跡発掘調査報告書

---

1997年3月12日 印刷

1997年3月20日 発行

発行 白州町教育委員会  
山梨県北巨摩郡白州町白須312  
電話 (0551) 35-2800

印刷 ほおずき書籍株式会社  
長野市柳原2133-5  
電話 (026) 244-0235

---

